（2021年12月24日付・下野新聞18面）　記事は加工しています

NIEもっけワークシート　下野新聞　⑭

小学校高学年向け　年組

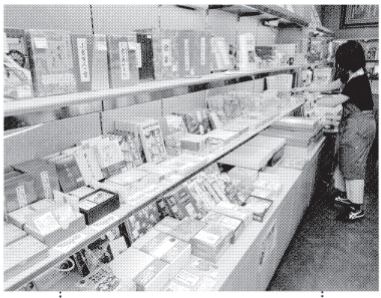
かるた作り通し□教育

学びの効果高める高揚感

日本の伝統的なカードゲーム、かるたの制作を通じた地域での郷土教育が盛んだ。創意工夫して、短い文と絵のそれぞれ45枚程度の札を作り上げる過程には学びの要素があり、学校現場での活用が進んでいる。東京・神保町の専門店「奥野かるた店」の奥野誠子社長は「町おこしと地域教育の一環として、郷土かるたを作る自治体や学校は多い」と話す。

群馬県の歴史や文化を子どもたちに伝えるために1947年に作られた「上毛かるた」の影響が大きいという。東京だけでも「すみだ郷土かるた」（墨田区）や「かつしか郷土かるた」（葛飾区）など、さまざまな種類がある。

今年、創立100周年を迎えた横浜市泉区の岡津小は、児童が記念のかるたを制作した。



東京・神保町の奥野かるた店に並ぶさまざまな「かるた」

学校と地域 より絆深まる

学校の思い出とともに町の歴史をテーマにしたかるたには、畑仕事の体験学習などで何くれと児童の世話を焼く「石塚さん」という近隣の住人も登場し、ほほ笑ましい作りになっている。宮路ますみ校長は「鎌倉時代からの神社やお寺がある歴史ある町で、作業を通じて、育った地域への愛情を深めてほしかった」。

子ども文化を研究する加藤理文教大教授（教育学）は「楽しみながら学べるかるたは『アニマシオン』の観点から大変、魅力のある教材」と指摘する。アニマシオンは欧州で発展した教育概念で、ラテン語の「アニマ（魂・生命）」が語源。学びにおいて精神をドキドキ、ワクワクさせながら創造力を養うことだ。

「日本は大人が子どもに対し『教育』『保護』を中心に考える傾向が強い。そこに偏らず、魂が揺れ動くような高揚の中で知識や教養を高めることができれば、学びの効果はひときわ高くなる」

岡津小では6年生は「歴史」、5年生は「自然環境」というように、学年ごとにテーマを決定。クラスでは班ごとに文字札の文章を考え、絵札のデザイン係は絵が得意な児童をみんなで選んだ。文字札の内容によっては、調査も必要だ。

宮路校長によると、多くの学校でかるた作りを採用。横浜市では国語や「総合的な学習の時間」で、戸塚区の秋葉小や鶴見区の鶴見小などが既に実施している。

加藤教授は「お年寄りから体験談を聞き取ってもいい。学校と地域が協力して作れば貴重な文化財産になりうる」と話す。

奥野社長は「かるたが完成した後は、地域ぐるみでの競技大会をぜひ開催して」と勧める。「かるたの原点は、やはり遊びです。楽しく大会が続けられれば、学校と地域の絆はより深まるはず」とアドバイスしている。

大喜利みたいな楽しさ　共有できる思い出を

実際にかるた作りを体験した児童は、どんな思いで作業に当たったのか。今年3月に横浜市立岡津小を卒業した橋本翔太郎君(12)は、班でまず「ゆ」が頭に付く言葉や文を自由に出し合うことから始めたという。次に「学校の思い出」という大テーマに合う文をみんなで考え、最終的に〈ゆうすずみ　なつまつりの日に　さくえがお〉と、歯切れのいい五七五調の文にまとめた。

橋本君は絵札のデザインも担当。「自分だけの記憶でなく、みんなが知っている思い出を大事にして、夏祭りで食べたかき氷の絵を描いた」

同じクラスの福士芹さん(13)の班が作った文字札は〈ランドセル　岡津のおもいで　つめこんで〉。漫画が得意な福士さんは、絵札のランドセルを赤や黒にせず紫色にした。「みんなの思い出なので、中性的な色として選んだ。頭の文字とかテーマとか、いろんな制約から言葉や絵を選ぶのが大喜利みたいで楽しかった」と感想を述べた。

横浜市立岡津小の児童が、学校創立100周年を記念して制作した「岡津っ子カルタ」

【言葉の意味】
・郷土…自分の生まれ育った土地。郷里。故郷。ふるさと
・町おこし…地方の自治体などが、地元の経済・産業・文化などの活性化を図り、発展させること
・高揚…精神や気分などが高まること。また、高めること

設　問

【1】見出しの□に入る言葉を選んで、番号に○を付けましょう。
（1）外国語　（2）郷土　（3）学校

【2】「上毛かるた」は子どもたちに何を伝えるために作られたのでしょう。

【3】創立100周年の記念に制作した岡津小のかるたのテーマは何でしょう。（　）に入る言葉を本文からさがして書きましょう。
学校の（①　　）と町の（②　　）

【4】自治体や学校が郷土かるたを作るのはなぜでしょう。（　）に入る言葉をリードからさがして書きましょう。
（①　　）と（②　　）のそれぞれ45枚程度の（③　　）を作り上げる過程には、（④　　）の要素があり、（⑤　　）と（⑥　　）にもなるから。

【5】岡津小の橋本さんと福士さんの班が作った文字札を書き写しましょう。

【発展課題】あなたの学校の思い出と町の歴史をテーマにして、文字札を作ってみましょう。

出題・監修は宇都宮市小学校教育研究会国語部会・大島康正石井小副校長